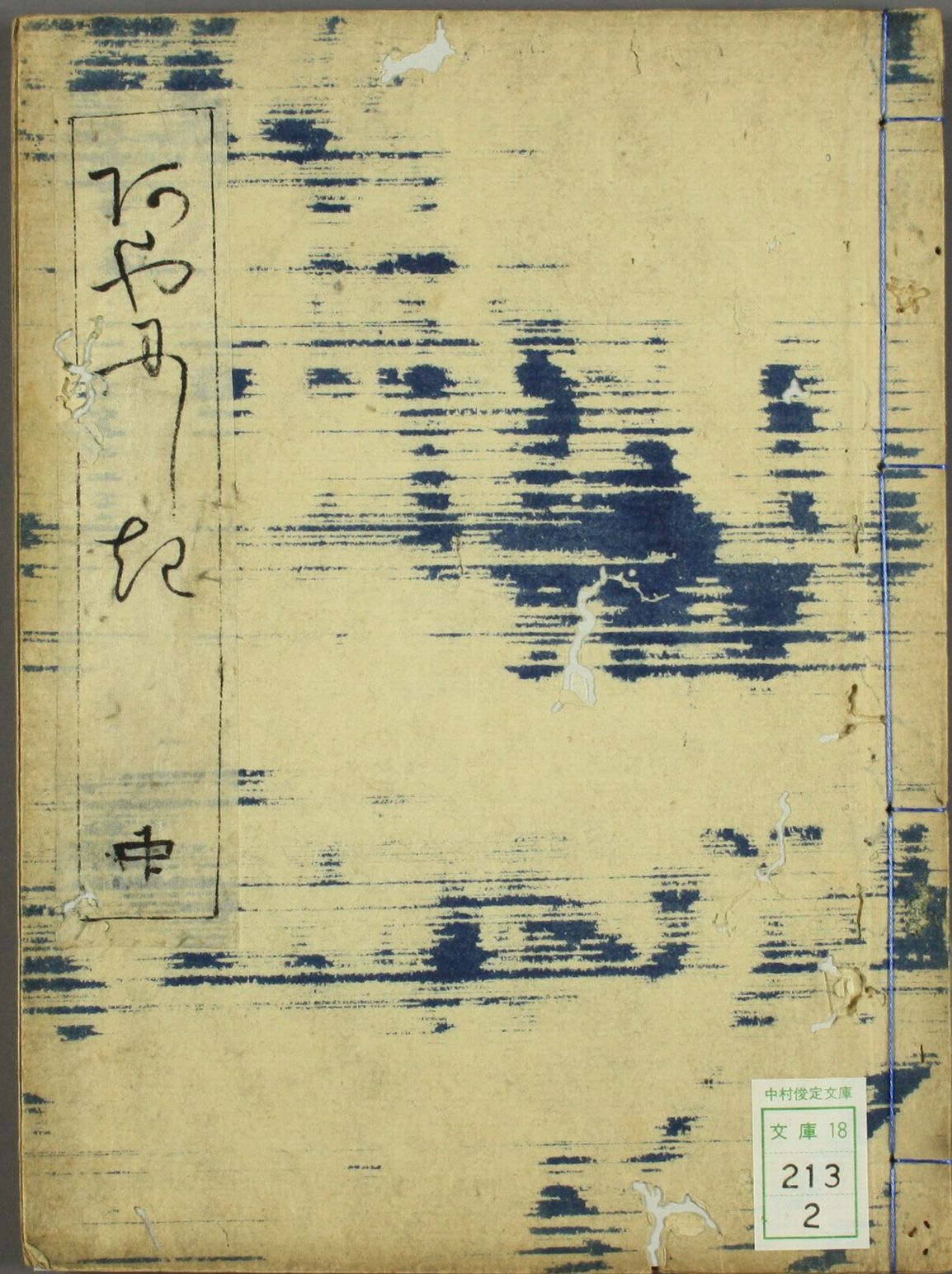


中村俊定文庫
文庫 18
213
2

宮城県図書館

宮城県公文書館

綾錦巻之中

沾涼編

宮城県公文書館

洮水の一字を露言にたゞすとて

色を沾せ洮水しをくなる花の雪　露沾

百福壽序略前ヲ

面白今ぞ沾涼とは

此一字廣くたゞうえをそゝちとり　全

賜沾字ヲ時

十分にそゝぐ洮水そゝゝや　夏箕波　沾涼

露を一字を送るとて

花石よ岡めや春の花擂　露沾

春月洮の一字を送る

世の美をもて露を光りかゝる人　全

○江都當時宗匠　次第混雜

風風〻陳〻　庶も　柳うゑ　千翁
天津橋時乃月　ゆゑ　大江　周竹
丸きてい鬼よ　降る　矢乃　螢狩　沾洲
天の花にて　海る日なし　月今宵　山夕
一筋い瀧乃　なりやむ　兎の死　桃翁
早乙女〻　鳴く　鶯い　ものを　一漁
花も穂も　万葉　ようそ　東方遠　倫里
幸崎の松を　あひよ　天の川　當国
物〻や　つきも　のめ井乃　煙　湖十
冬野〻や　嘶　ひ　を　上　吏登

鯨乃目不便よ　貞佐
〻〻の吉原　捜せ　北月　和雄
風吹き　を待　あつ　冬　不扃
初雪や　芋の　紐乃　きく　前田普峨
月天壁の物　〻　寺　今吏
〻〻雪や　佐壁　二不　水国
馬の呑ム側　一口　来川
帆柱よ　一夜い　西乃川　陰威
山も川も　刷毛　紅葉　貞山
水鳥に　〻　頁　鯉　超波
菜も鴨も　葱も　ふ　百洲

吹上たるしらゝの屋けた蔦紅葉
武蔵野に消へぬ浪や荻の雪　壽角
竹垣や麦の葉そよく時雨　沾山
音梨や雪の下折る木の言　乾什
水仙の水際明たる雪　壷月
ゆるやかに百會乃力菓花香　露牛
雲のうち見のおもさを送り菊　常仙
雑木林田くやゝ保ゝ碕　尾谷
馬場ゝ伏野の波ゝの暑さ　逸志
小数中も伏ゝ此門あり郭公　舞山
外の花乃夜ゝまゝねゝ屋の寒　成屋
　　永機

降つゝ添火はしかけうゝ春の雲　沾涼
あゝ春や　梅　水仙のあかゝみ　風堂
名月やうゝ物ゝ湯もて拝む文　潭北

右乃句ゝい得ゝるあり拝ゝるあり沢山い
其執ゝ所ゝよゝ系ゝ好美別稿

○古来点取乃巻を得ゝ其点乃ゝ
句ゝ其品を写ゝ二ゝ軸ゝに記

寛永頃　乾堂未得点

蚊帳ゝいひけゝゝや筆一出　可入
学乃たよゝきゝ秋花蛍火　正勝

京を移す月の入江の音よりて　幸類

泉水を　うつす　今朝の後移

涼しく　有て　俄　合　妙　具　服　ぬい　仕立

ものを　着　俗人

振舞に　料　る　鯨の　汁　賞

餅　つく　賞　を　折　いかい　事や

番　匠　のよ　く　ま　る　家の　棟　上　り　幸類

天　ヒ　ら　い　ま　た　雲　す　紙　治　ら　子

旅　出　ま　く　船　の　ま　も　面　を　ま　ひ　も　猫　未音

四　百　韻　未　略　し

付墨　五拾七匁

北門長　三つ

未得

・墨印

九五匁宛

幸類　点十六匁　内長沙

可入　点十五匁　内長そ

正勝　点十六匁

未音　点十匁

花を色むしやの乃風ふく　怒流
春の志のを　屋敷　笠松　全久
あらし雪ふりもるに糸もの　卜入
よみ　寄れいぬるめ　由宜
著別ぬる小袖浅緑の金ぢ　春重
汐乃出　ぬるもいしうれ友　重次
ふの面ふてる月の酒をのゝ　勝平

秋の宮中にはう乃市立　釵情
八幡ゆ面てやあうえ　枕筆
親のゝえにそるハ宝寺　調和
一順のゝにて未略之

戸雲七拾句
門長武
丸五

三月十四日

墨印

玉詠の百草嶺や春乃駒　菊畑氏　行尚

自服略

二十七句中

行年春之句

春之句

ない句

孤四句

了〻形　朱ニテ

墨印

切蓼や小町うばらの艶　調和門　風堂

自服略之

俳墨年之

嘉兵衛之

弥壽四

梅東之執筆

印有

雪の滝 ゆきのたき

雪ハ仕春の発句ふてなし 露言門 尺草

ゆきひせ〳〵ふるよ 尺草老人の物語なり

ゆて雪にうてそのそのを忘をうすそ

乃発句ハ芦あとあて平点し

古今集序

周七 孫公

高云

印不見

元禄頃 續二百韻 初調和 末不角評

漢

雨乃秋や そこ毛ふ廉ハ我中 唐栄

六点 夜ハ樞より 腸を 新 今当国ノ 良猿

五 詩に炼し 大国乃秋より 鄙風 白俊

五 秋乃野人と 傷る 淑望 浮生

長 新月より 酒たつさへて 繕 栗毛 桃翁ノ 桃隣

五 悲しき 猿ハ 物より 賊 雉 未志ノ立 孫

四 笄 拾ふ 庭の 菊いまに 折 周行ノ 舟竹

八 なき 俳 生せ 〳〵 殿を 剥 子英

四 和点

尚そく利休の茶を伝ふ　花笠

孫子雪よりうれしうれしの瀬の乳味　京色

十、一　竜の鱗くらう病後を寄せる　鵜

四 昨の夢のうつろふ貞室　後和

五 夏眼ばうちくいの字乃二拍　詠居

長 往昔乃智を　十六日　節七

四 永楽くらべる稲を自然ほろく　和英

長 君乃仁こそ一万物拡乃家　蓬雨

十二 月の富士川永徳多ゝ掛　幽蘭

四 恵歌を謎うる寒徒　丈岳

座付　金獅　長雅　旭志

一吹而已ほろく未略

八十八

此所有印略

七十六

調和

朱印

志こ草に根なをりや豊國野　今露月ト云

眠らう昭ら　識月

探菖

茶に味を付らる雪の旦　辻吳竹

[illegible]

[illegible]

弊中號朱書

此聚点印譜略之

[illegible]

雪舟

不見

鳶

元八種試駅そそぐ

脇ヨリ畧

沾涼ヿ　南仙

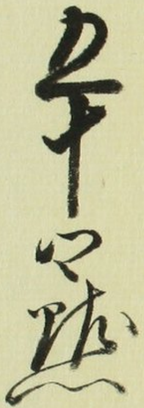
鳶二鳥

朱

戸ち

せる我よさ

かんこ鳥　今百二ト云　周鷹



陰俗朱之　俗朱也

朱十

七十也　周又

飛石乃れのたまもはしか　千楓

十乙路中

此間有印略

元目　立志

極

心映い清く黄なる日ゆるか　正典

脇ヨリ略

殘墨八旬

長年の

樋口氏　前少

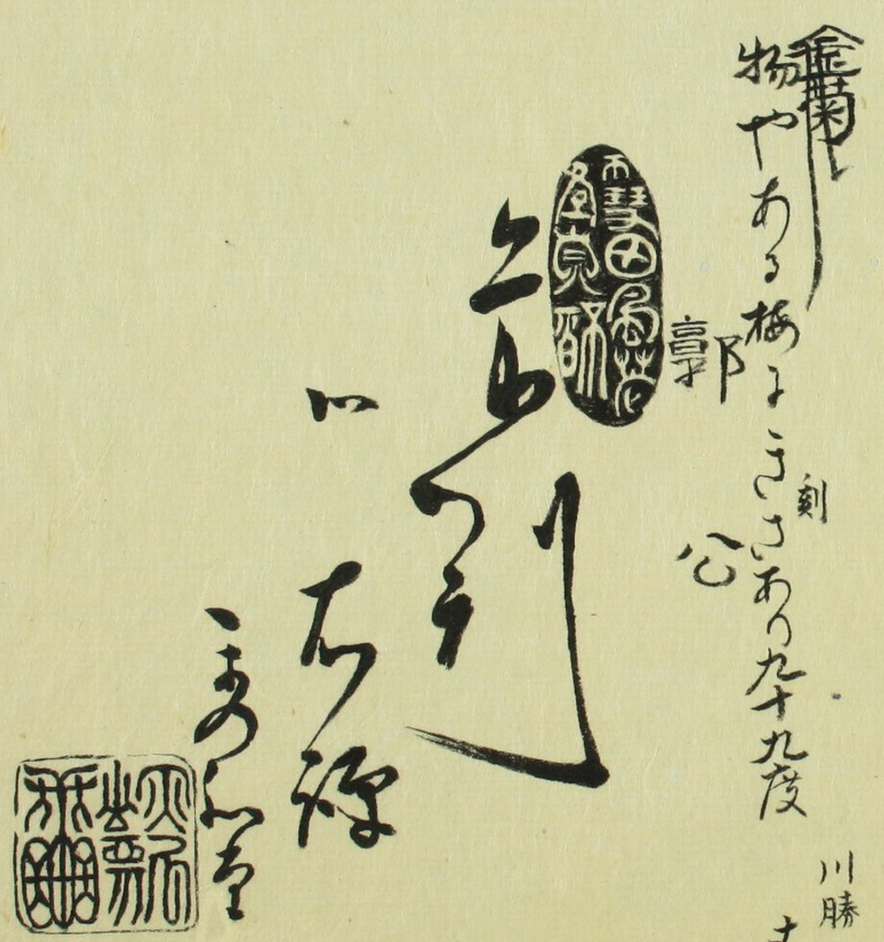
銀

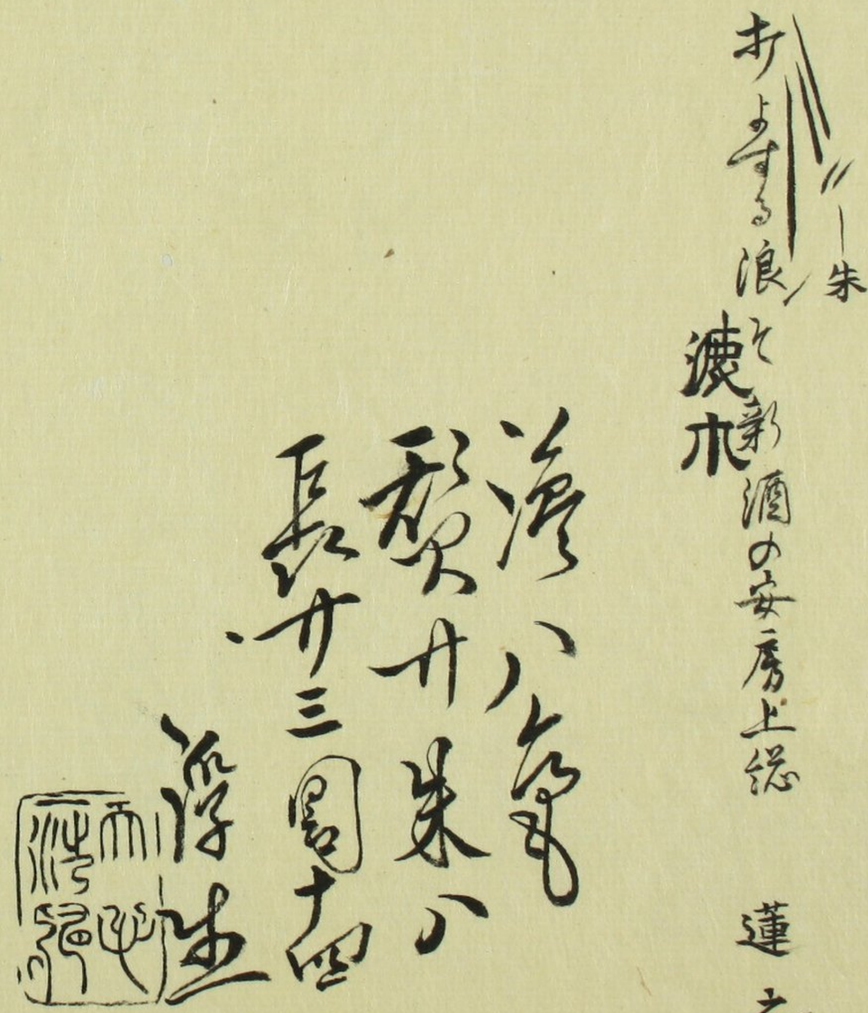
服ヨリ畧

北村

東巴

調柯


物やある
川勝
丈岳


朱
波木
酒の安房上総
蓮之

對揚

鯛乃同の秘佛を尋ぬる思ひ

宮川　千風

金魚袋

作迫の松を詠ずる和歌

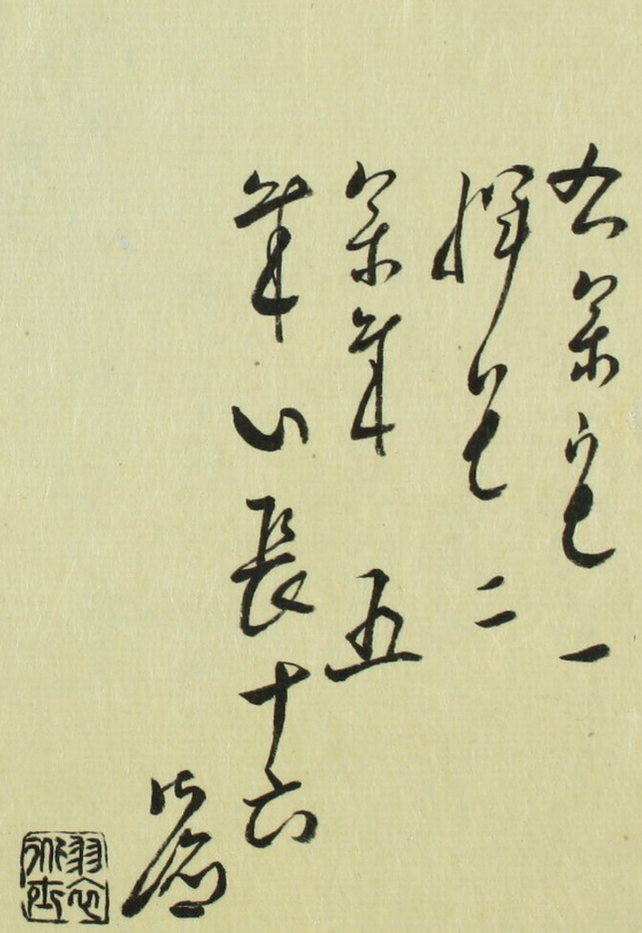
服部重略

鈴木　東隣

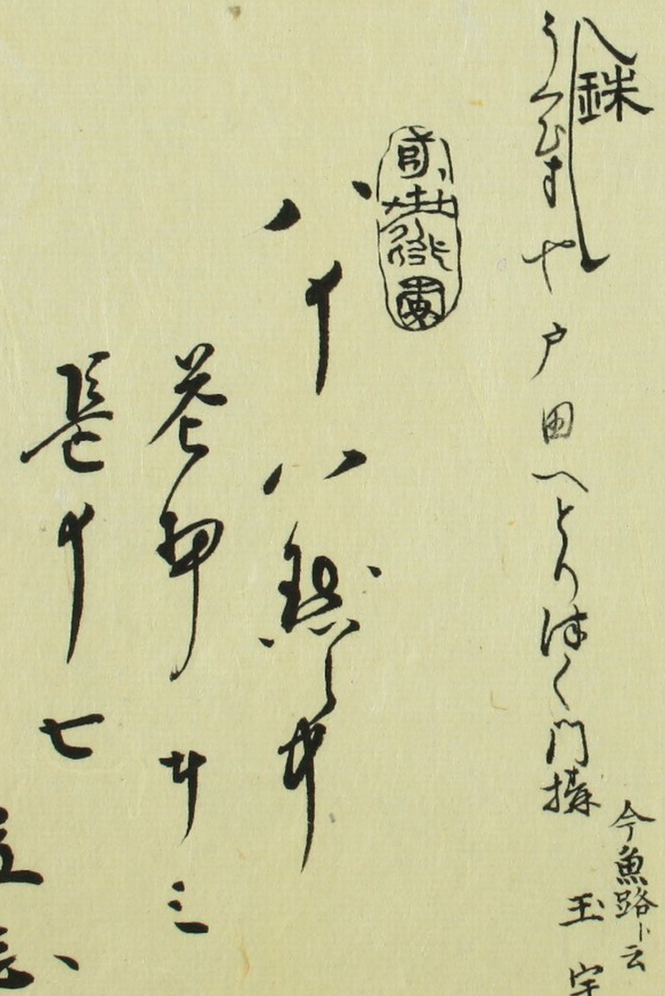
有栖川宮

朱

雪朝



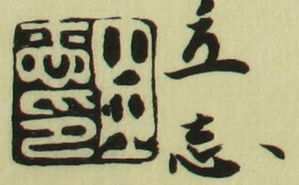
珠



今魚路ト云

玉宇

三代目



朱

うらやまあるまくい富士の裾　宇田川　末二

百千鳥

雲立　餘生級

以貌

雅風

此集ハ

凡乃夢ヨ奈須の与市も惑ヒ　千翁

人比（カタヨツ）ゝ云和哥に師匠ハ云ヒ也乃

系譜なり

道ヨ師いありの実の中人乃花　沾涼

和歌無師匠唯以舊哥爲師深心古風習詞

於先達下略

注云　和哥ハ自然の発得の境界なれとも人の教ヨ中略

習詞　於先達ゝあるハ上の句ヨ自作相違あるし

仰ちゝ志ゝるゝとも句を文字ヨ習の不ハ師匠と

云ふくしゝゝゝ

○當時宗匠乃添削一兩巻机下に積ゝを

ちちゝゝゝゝ茲ヨ録

亀北月

郭公ちかく和つ中禪寺　中車

（不見）

九丁絵

一翼丁色

不見丁身

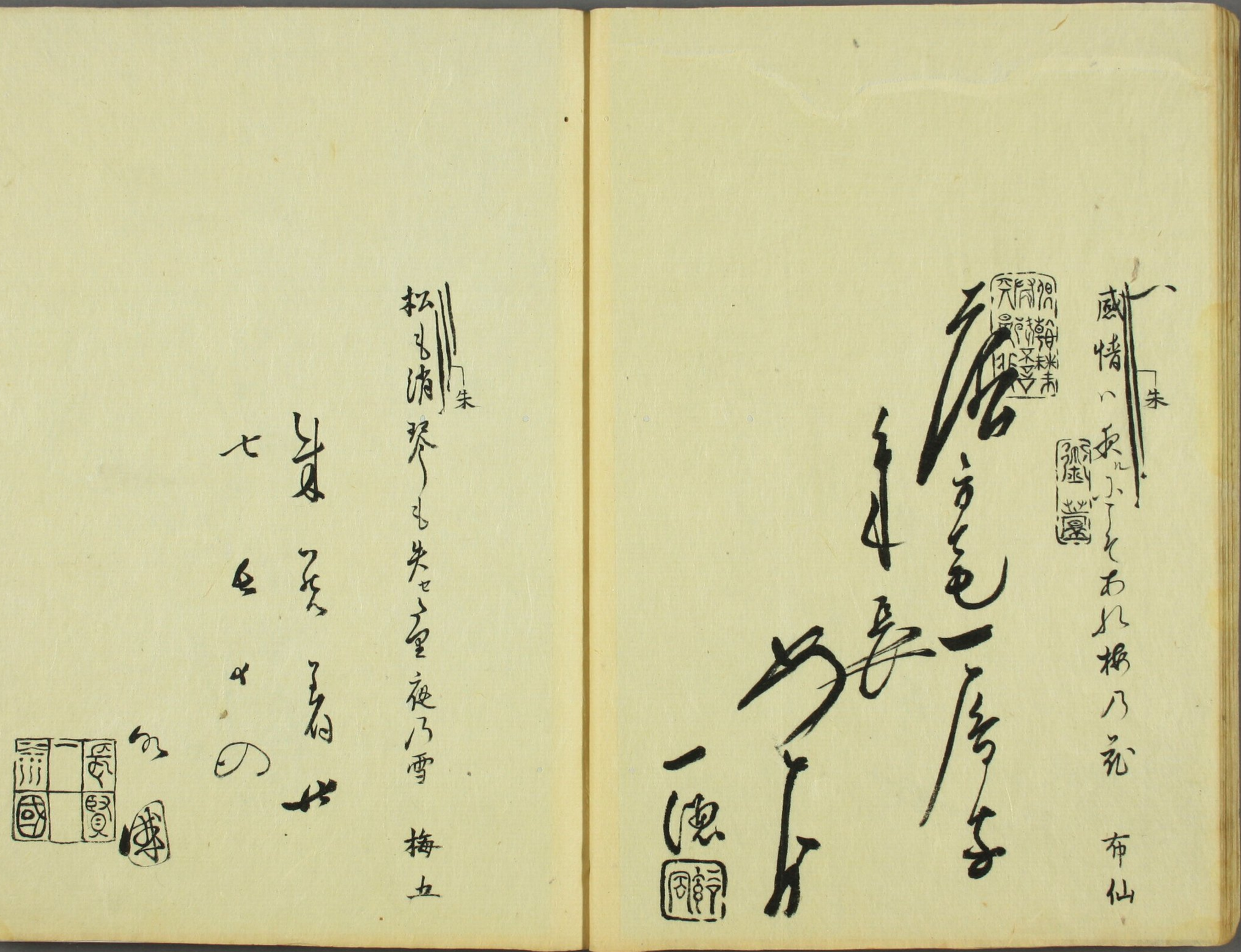
清信

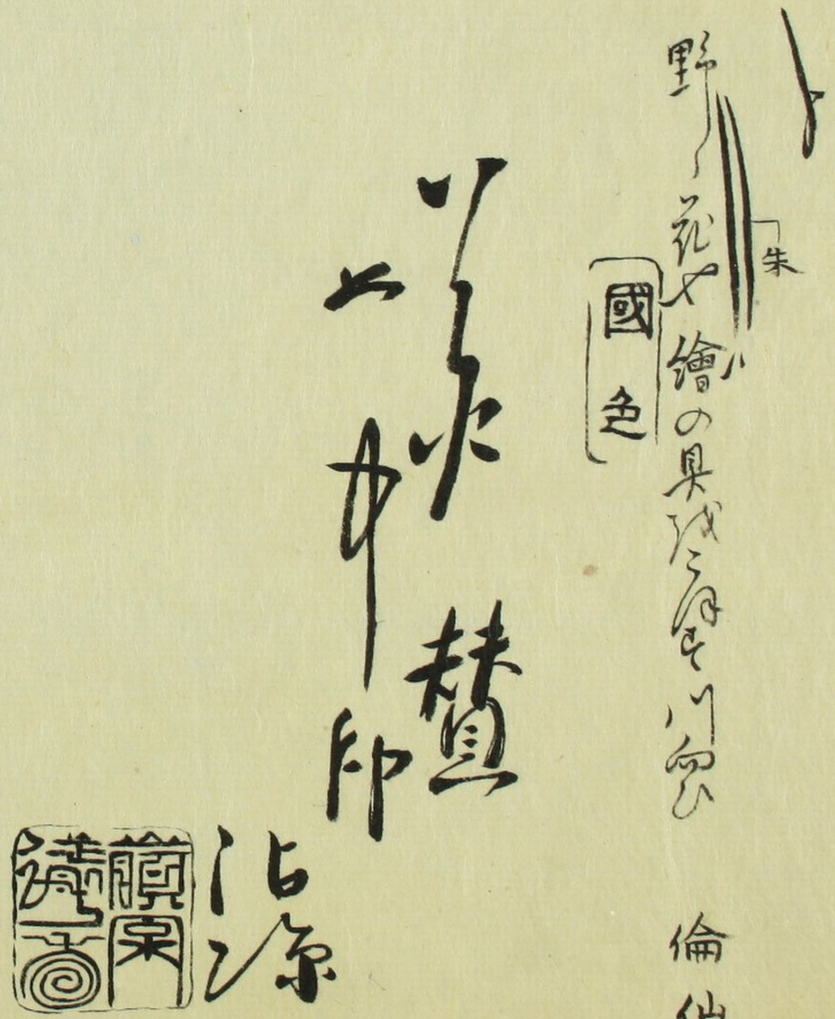
大竹の清をみくやゆきこえ　朱

五百武

清風　菊上世

四長十一


感情い
朱
布仙
松
朱
梅五
七



當時宗匠点印譜

次第不同

調和印

獅子 ■ 以静爲用十五 兩朱七 長三 紅絲石十 朱五 九二 堀尾和推

玉姿 回文錦字詩十五 新月色七 花影上欄干十 回雪五 長三 桒岡貞佐

筑波山二十 珥比磨利十五 異玖用加十 祢菟流七 朱五 長三 桝井山夕

彈夜月二十五 天壽十八 金氣艱精十 丹頂五 立夏清風至十五 君子鳥七 長三 鶴海一漁

金精二十 映朱十八 銀輪影斜十 朱五 玉夫弄桂花十五 廣寒月七 長三 桐淵貞山

五更二十 四更十五 二更七 三更十 一更五 長三 内田沾山

神物護持 順勾 丹鳳十五 畠中詩十 風檻七 長三 稲川當国
簷花雨二十 宗玉韻十三 玉膠八 孔彰五
無上宝 准勾 天心月廿三 資玉二十 千珠十七 神妙十五
秀逸十三 無極十二 大極十一 銀漢十九 曜九 蒼溟八 立羽千翁
亀脊七 俊六 豪五 英四 朱三 長二
羅浮夢十八 東閣詩情十 朱五
かゝり点 月黄昏十五 江南梅七 長三 貴志沾洲
水調歌十八 春江花月夜十五 清平調詞十
かゝり点 長相思七 朱五 長三 江川百洲
太白堂印 一種風流推国色十六 色典香奩價十三 有玉声十
神盧感二十 三平一平七 白宇留利五 長三 瀬尾桃翁
須満耳十八 崑崙玉餘十五 羅水金十
かゝり点 千載観七 朱五 長三 雲津水国

花重錦管城 錦管城 楊彩二十 三光十五 車輪玉十二 黄禽十
両品尺倍点 曲浪八 行帆七 朱五 長三 三田白峰
無盡宝 准勾 天高月二十 化玉十七 神竜面秀光十三
華徳十二 有隣十一 文哉十 螢雪九 抗書八 立羽不屈
鶏窓七 順六 樂五 好四 朱三 長二
其角印
半面美人 ■ 一日長安花十 洞庭月七
かゝり点 越雪五 長三 九二 曽湖十
天地陽花二十 清奇 加五字二十五 奇陽公主十
かゝり点 笑桃李七 朱五 長三 笠家逸志
翰林賜錦袍廿五 玉堂雲霧窓二十 金榜題石十五
一技桂十 黄甲七 朱五 長三 帯金彝山
宝鼎八十 龍七十 鳳五十 秘曲三十 簫廿五 磬二十
三籟十五 呂律十三 宮九 角七 羽五 長三 豆立來川

屋敬十八 金銀■十五 四字十 長坂成屋
（かゝ点）
三字七 朱五 長三

嵐雪印 隊玉簪百花加之二十 翠蓋門上十五 探荷■
酔中翫■ 百花嬌語十 弄晩涼七 探菖五 長三 櫻井吏登

夜梅三十 睡海棠二十 睡起美人十 国色五
（かゝ点）
桂二十五 未央挿十五 美蛩人七 朱四 長三 菊岡沾涼

仰高鑽堅准勺 慎其獨二十 明德十七 志學十五 景星十四
慶雲十三 道拯十二 峻徑十二 至善十 奇家九 脩身八 立羽壽角
誠意七 藝六 常五 能四 省三 長二

九竜館十八 壁玉簫十五 洞裏神仙十
（かゝ点）
大乙壇七 朱五 長三 志村常仙

花生二十 泥書十八 五字十五 四字十 折田今吏
砂中玉八 夜光六 朱五 長三

古音峨印
（かゝ点）
金声十八 薫風自南來十五 海棠七 前田音峨
高山流水十 朱五 長三

二妙二十 万斛香十五 月明美人■朱五
（かゝ点）
花千天下春十 雪玉條七 長三 岩本乾什

沉香亭 月雪十五 三字月七 長三
（かゝ点）
五字花十 二字雪五 九二 曽永機

五字 順句 彭澤二十 孤芳十五 金玉錢十二
寒英十 晩節七 獨秀五 長三 今村陰威

隨唐十八 花街簫鼓月十五 露往霜來十
（かゝ点）
支機石七 朱五 長三 石川壷月

蘭脊待十八 十島十五 蓬山一樓雲十二
（かゝ点）
金玉翠珠十 鵬鵠班七 朱五 長三 千豆尾谷

鳳銜（かく点）十八　徳高比君子十五　朱五　長三　清水超波
石蘊山暉十　長州英七

季吟（法印）門人　吟市（尊海和尚）門人現　吟市（久津見氏　御直参隠居）

一僕とほくくあるく花見うた　季吟
家つゝや散るを荷ふもるゝ山桜　古吟市
一公助ハ木の葉そゝ紙る歟　今吟市

其角　門人　堤亭（下邑氏）　苔翁（右苔衣氏　堤亭斎点印附属）

東坡賛
ワの雪とおもゝかるゝ笠の上　其角
ひゝらの瓜の皮の紫もゝ　秋の末　堤亭
人ハ梅桜ひハさゝ　松のもの　苔翁

人日

摺小木を遠曙小豎乃蒔ゑ　露沾

早春

ゝゝ鶯や屋敷ゝ東乃色　扇風
明て今朋の残のゝんの名あり青乃雪　溶く

歳始　二句

初春　松年乃蒔や　越前丹生郡西田中領　沾涼門　北仙図　南花
赤椀の白ひや去のけめ　梁氏　貞桃
家セ暮の遠者を尺ゝ茶摘　沾涼門　沾橋
十冨士ハ先ひゝとゝ　門門　魚路

初寅

年當をゝゝ人多ゝや　秦姓嫡　不水

梅　ひめ中　きの日の

梅活きて伊勢清が英揚が非情

門番よ海月いなれの梅の昼　芭蕉門　卜宅

ちきしたや花の鏡の志のくんめ　雪朝

正乳敬吾こてみまんむめの花　千羽門南方堂　沾涼

娘のくんぼのうつ風や忘れ乃梅　露公門芳泉舎　有林

吹通せ梅や梅ち立ち中押へ　沾賀

初午

午そうふさうぐの稲荷ち　一漁門　梅宇

ふるうや初午日永蒲鉾ち　沾涼門　五百武

うみちなう中たまるの稲荷ち　露公門　布仙

ちう午や ふの中ろい中稲　露人

上巳

挑灯ぐ鰈子ようひて御濯水　露沾

大内い陸にしも　あり紙雛　太平　竹裏

能ふ　ふ神代のまくの雛ち　賀朝

汐干うの和女の和ぬよ一束　一漁門　樗律

汐干ひせめてうも蛍の墓参り　貞佐門　有佐

汐干うの泉身投ーふまて　交月人　調山

汐干握のよくこなうまぬ汐干ち　快山

うくくーくまなみうも桃の色　服部氏女　臣女

龍ふの大津よ至ん汐干ち　沾涼

きふの汐品川ちう安房上総　魚路

時津風加えて苔の餅むろ　紀逸

挿　　芭蕉門　卜宅

あいをさを挿除さる柳かな　雪朝

知盛も出つへき浪や風柳　沾涼

青柳の糸を漕ぐや昼の袖　紀州若山　一瓢

去年の荷をおろして動く柳かな　沾涼門　倫仙

風て胡蝶ころ屋敷き柳うる

花

夜桜や笠もちさる妻はんとて　蓮之

水桶の裏二スス日　宇田川氏　未石

垣百足よ美女の素顔や胡蝶　北尾氏　音里

でおりれて袖もそ〳〵いで花の砂　加島氏　好夕

花見うる樽を枕の甲斐越ば　夕佳

桜咲を矢弦して詠めうる

千金い出限よりうり花の蕾

垣一今世全のさくいきの蕾

汲ム花い行ふらの風を水車　和歌才門　一山　鴨

沈鐘気のうて算を桜鴉　伊津洪水堂　節音

二ヶ月を色こそうさく外　水戸住　先孫亭　落霞

をい退キ日い機を屋ばうる外　千谷門　分角

左　名上野　乃竹

見付うう面をとかゝ　花の雲　其角門　一風

花い色吉野こそ笑ふ　の香　英松

大仏の高い事白山ばうる

花や天ん高よ下谷の切通

改壷竜　樓川

沾涼門　千洗

猪飼　蚤棘

扇的

門を入て食もへられさる
ものは仁王を拝ませさる
清水を
鉢中まゝ花の花いさゝかに
心門を花よりゆるや毋大師
白魚

ゝ魚や洗よ裾野の立春面
ゝゝをやゝ心よ天王ゝ八王ゝ
星を焚ゝゝ魚釣や一洗く称

生植

蔵概や色い淮部風古家析
氷柱なゝゝ風も増すゝ義の心

卜宅　魚路　雪朝
梅五　立百武　北尾氏 千洗
才庖門 一庖
渥美氏 琴月
梅宇

ゝゝ雨ゝ文鈔を絞る清ゝゝび
英人ゝいかゝ痛なゝ独活の肉
武義聖や古寺に住ゝ隠元豆
くゝ腰帯ゝの腎を天せゝる赤の芽び

名不の名の花

菜の花や鉢ゝ鉢ゝ稲荷安
勢多の花を多ゝ菜畑の色雲
菜のゝゝや余ゝ離れ井ゝ蛙
菜の色ゝ照ゝ碧ゝゝゝ稲ゝ波

氣形

あゝひゝゝと明て田みの夕日び
ゝゝひすや人ゝ氣籠鞍馬流

露公門 水戸 沾瑤　賀朝
秦姓 丈岳　安祖
沾徳門 沾津
沾涼門 東沚
伊賀菊罔氏 記之　梅五
笠家素竹軒 逸志
調柯

井戸掘のいとくるまを葩ゆ
笠の戸い虎渓よあめひそり外
菓の宮よ屋の周り乱れり外
歌屑の紙屑と飛び海丁飛
書祢宜と白髪あるもの妙嫁飛
何ものの蝶の中ゆや牛の蹄

露公門 露庭
和州郡山 云く
露公門 水戸 沾渡
希聽

古世の鶴そろへい渓泉のむりもなとり
むり淮浪ちをを下沽のたてくめ

稿科氏 菊千

雜 春 題こんらい

田嵐のまつ只今くくる
そ脊頁よ桂や和泉の篠田まで
紙の女の笠おもしろきあ飛

江戸八ヒ 来石
周皎
只口

長宗子は牡丹のあるを見ゆる
出かくやくきよい浅ゆあ扱子摺
よきあい解きくく畑の芥子
大名の去乃中やくき瓢
去西や おもあるを移ち上戸

信州松本住 賀朝
三省
夕新亭 云く
水音
御柳

越前大保住 和歌才門 田井氏
立凡

やゆ人や侍まの外の魚千里

天満宮法楽 武豆玉郡巌宿連

筆徒よ柳竹梅やはり元り 桃舟
神垣よ五教児しむめの梅 万里
大小の味や青物移乃梅 李冠
法楽庭や百大切のくの梅 李角

貞徳門
正勝
宮辺氏

松永軒門
正徳 長子 円苗
和歌才門
正興 長子 謂正与 円苗 現
正全 長子 円苗

乙姫の紅にさかりそめん秋の色　正勝

世々の系図山つたつたきくのはひあるべし

ちゝ色あるとたのあるべき梅ぞ　正徳

多き紀き雪をはらはらや海ぶり　正興

花や実やとゝうめものを梅とゝき　正全

西武
山本氏 門人
卜雪 長多村 誹諧ナシ
現 郭月 長子 円苗
現 東巴 長子 円苗

源氏白合蛍考

蛍火い泉居とゝのあるべし　西武

苔蓑とき羽くやくびもるゞ梅　卜雪

岩天の泉をとゝ海とゝ海の夢　東巴

調仙

賀朝

名月やゝ家形とゝ泉は奥は浪

蜀江錦をとゝむ　窮

感宮い燦情ゝ泉とゝ海とゝ

賀蓋ゝとゝとゝ福人は後

汐風ふあゝおもゝろの松のとゝ

芝生とゝ新緑とゝ中

えゝくゝいゝ水晶輪の化ケ仕系

やぞの色奇のん釜とゝ

去海とゝ一城藻りとゝひ合

恪気の味噌とゝ車押ス

[illegible]
[illegible]
混池に逢ひ　入川は屋
布袋の汚涕に産土神
相物のかゝいかゝそかくれ里
尾硯の減らしに多の象
良刀の意味を研や赤雪
[illegible]
[illegible]　藏王堂浮
あらめ百いさがしても朝
口絞る辛味ちがい地方北

小町の果を十月の菊
世のとをぬかゝれの為宿
井さゝひの滝　三上山言
番町い坤皆断ふさぐ
酒呑童子の為大部屋
義盛の荷前て一家の定芝挽
[illegible]　被ぎ戸をもゝめ代
俎板に万歯濯ぐ　十三歌
乳に入屋沢実も花い蓮
蛇の舌つきまゝ切老の姫屋
蓼菜臭　柱柄の臭

寛永の繪屏の物ゝ色変ぜし
芝居を見て孫と共に入ぬ命
花なれや人い菓冠なれや花
いとぬ仲引上葉稚山吹

∴其角

杉尋 久米田氏 柳塘 嫡 賀朝 同苗
藤堂家ノ醫 享保十四酉十二月卒 同家醫
沾涼三物組 沾涼三物組

長閑さい生の海の表え 古人 杉尋
弓上命の多いかをなる 賀朝
蔦の紫もうえぬはる墨さい 不角門 吉田氏 賀角

未得老人祖母の慈父うり沾涼子今
其系を傳ふ有り同く未の一字
をうして鄙名を改るの 邑里堂 未石

其新を作ひて出る新樹う新
汗ヨ用ゝよれ蓋の蝸ぬき
屋形しれ床ゝ山をつて来て
そゝぐえん今やとい かゝ 蘇
ゑ源をうゝ自 乃京男
あゝ芝居 蓬 二タ仮
鶉沢の実い面ゝ沒ゝ 宗漳子
女房乃 瘡 精 兵 を えん せ
俗ゝ おい 鯨 ゝ ひ も を 誉り
黄ひくさめよ 蓋 ハ や ぬ ゝ

言葉と　日なれて知れるとひ解
俳もじの紙の先遠天面ケ
紙也と抱腹　海右新巴月の松
ちを畑と　歳年の百屋
白髪敷き老ハとこ屋の焼き
ふとつと折　茅屋いつぶ
与孫後　吟たをさる　花乃主
鬼のしらをむ　永源おで
浪の栖る　山も筋ひて　春比須海
時半の言葉　我国債
夕立の拍子　葛家にて
琴蓋の　ちとんのそてい　仮次

涙茶屋いと　大桂馬
平泉を　ちとも　水のどうす
匂ひ　なる　海のこと歩百
多染彩入　ようす　桃　栗柳
深夏　秋　梅めさる　解毒丸
いつの　年　ちを　あまさ
風と　茶屋の　素面　三ケ月出
大のぐらを　毛あ　ぬ栗
茶本と　和　ぬを　雪洗さる
鞠の　茶屋い　菓子　埋らを
言葉　鳴を　鳥の　白大津
時　大　根　唐の　付き合

人居の色と清覚――勧学屋
あらぐ〻こゝ月の湯気

貞徳門
未得――聟――可暁宇田川哥学――可信円苗哥学――未石円苗邑里堂
子
未琢

式亥のゝもとにて夕きゝせしにて下坂市〻兵〻
とる力飯沽の俤を引ぬきて人〻　下坂八併屋町住　未琢　貞国

ゝもとより八一町をうり下坂の門の紙さ――飯沽い貞国
塩上をゝ瓜のなりゝ――を　可暁
塩絨て家をゝ〻ゝのやさ――さゝ今角ちゝて汁人〻ゝせん
あさ角をおくゝ――ゝ人〻　可信
相撲を役なひ――おかゝ〻湯谷の角を引て出ゝるもせん
朝撲――おれ――蔓延ゝ瓜ゝ　未石

郭公

初聲い火加減ゆゝ――時ゝ　吟市
ゆゝゝゝ蛙千丈あしに――　當国
星を吞ム鳥籠――つゝゝ　賀朝
雲に消――ゝあゝやほゝゝゝ　沾涼門　乙風
ゆゝゝゝ城のあゝれの吉田橋　鶴史
あゝゆゝ猪い物ゝゝゝゝ　李條
ゝゝゝ人間ゝあゝほゝゝゝす　洞曉老　古竹
髪結ゝ服をゝゝ本ゝゝ　不高門　ゆゝ老　不急
ほゝゝゝ扶ゝて桃ゝ老角力　秀谷斎　有佐
ゝゝ恋ゝゝ鶏波ゝ五人蜀黍　夕佳
ゝゝゝ郭ゝ家房ゝ　扇的

傘をさす一樹の陰や時雨　太平　竹裏

素性いと遍照乃子孫なるを

くしひすの遍照　素性　沾涼

玄石千日酔

相い我度つゝ麻ゝ子　秦姓　丈岳

市中一郭公

風人やうく時雨二重店　松濤斎　道路

弱形ハ多の庵り保ゝ　沾涼門　涼之

れたゝ茶ゝ油あり時雨　未ノ立志門　如夕

繁ゝ寺ゝ風せり望帝　同門　愚髯

雨雲や家ゝ山もゝ郭公　同門　風志

暁を滝ゝ雲保ゝ沈す　風女翁　杏白

杜宇鳥又おれ〳〵冥途のもゝ

たゝ〳〵戸いと案ずの多りゝ

近江より美濃へ美濃より杜鵑　不扇

藪越しの海い時ゝ雨ゝ　梅五

いゝゝゝゝゝ水あゝゝゝ時雨　布仙

伊賀上野宗匠　倫仙

原松

鰹

今浮ゝ通ゝ矢のかゝゝ　沾涼門　五百武

通ゝ矢のかゝゝ　涼宇

蓋ハ色いと京ゝ　布仙

ゝ浪ゝ美を知ゝ　周皎

鰹ゝ海神ゝ垂　露公門　沾戸鱗

納屋の戸のあゝゝ初鰹　古竹

海を出て海よりもまつ鯉
宇治川い伝ふ木橋ふる鯉　沾涼門　乙風
沾涼

螢

色買ふ八百屋の葉蔭の螢　丈岳
身あるの吹売もうはるる
もゆるの消ゆる偏くはるる　露谷門　古屋　露英
ふるおもふ尼の糸蘇の螢　快山
秋の雲なるる深草の消ゆる　志村氏　聯志
沾涼

蝉

ふる川ふそ
帆柱ゆ蝉のうをゝ環尾千里　久米田　賀朝
陰ふる　橋ふるもや蝉の盃　水戸侭　英松
焼ふるの水陰や蝉の夢　沾麟

端午

て海ふるの蝉吹あるん梅解　梅宇
菖蒲丹波の海水仮あるう　沾涼

夏日

印肉のふみ出ん泥のふる墨さか　琴月
海ふんて波ふるあるさか　沾涼門　佐〻木　沾蝶
風風て風ふを吹する墨さか　不扁門　光〻堂　琳角
あつさふる牛のつく新切通し　桃翁門　巾車
焼り　ぶり荷の息や油照り　沾涼
ちん海ふと比丘尼のあふ墨さか　照仙
一の日い雨ふ京ふ氣のまふる　芦葉斎　乙風
一柄扇　黒根をたふくあつさか　菊千

蓮

かくさのはめ折やよくの蓮　東巴
咲を見て根い奪くまさ蓮の名　鶴史
風さえて星の居りの蓮の数　好夕
十ウしくそれくく冴く蓮の指　結城　周午
欠とする蓮の巻葉よ蘇芳　凌霄堂　冲而

生植

立文字い気ウ地よ変りのむ　一漁
草や在さうの孫う牛の鼻　調柯
日くの作海うや時半草　和歌才門中沢　答推
いるん牡丹の量よ獅子あくて　同　梅至
霄い雨ゆ六ッ七ッ花あやめ　鬚堂　市紅

昼新や清水坂のまれはら　其角門　一風
姫百合の日まをいとや懐る　楚炊
去年見しの乃ふ海よ茅葉山　調山
麻朱夢をて浅ひよう花葵　沾涼
嫌拾る人もく人しかくく　丈岳
さくくの水のれよ　羽音田　未立志門　志諷
いせくや川よて
舟のくの船や神奈川の鹿　石町　安祖
知の花や真田の丸の胡麻を　露門貞子堂　露喬
初瓜や鍋いくくて西東　ふふ川　沾播
雑鬢の　鍋を十徳の子も　甲州宗匠　萬丁
僧てなく信て牡丹基あくて海

雑 夏

おもはしく遠子も見つゝ衣かな　東潮門 宗瑞

抜かれや婦る事なくて秋立の足　五山

訳し合清は遠し丹波蛍　東隣

荘子に故蝶の夏詠り

硝子の魚と化しけり蛍屋の夏　露門 皓魄堂 露庭

絲ぬきや世も貴の蛇加減　同門 上州佐ノ 露周

ゆるしみて世を訓て来ん扇かな　小島氏 雨桐

志よ橋を呼びて止まる船かな　千翁門 有月堂 隣角

巡浩し雑子のたらへを枕蚊屋　同門 枝月堂 菓角

景清は蠅より蝶の纏りかな　同門 陽月堂 栖雪

其影を海士は積て一円子の不二　同門 江月堂 岷角

蚊をしらやキャッキャと浅草市わ場　浮月

五月や二十の春て見て男　水戸 相田氏 沾隣

功徳池乃恵く住を写を清みけり　同門 沾珵

這ふるとは苦くて至須戸の石　宇都宮 青山氏 立鴨

果報まは人の莫の郎の磐石　幾水

天地のなきはまりやところてん　和敎才門 紫筍

そもりあらぬ冠るそしは田植哉　未石

嵯の戸は笑ひよらて田植けり　梅五

糸限の彩色て来ん田うへかな　布仙

そうら徒のちよれ味あの夏なる夜　五百武

夏の秋やなるそれにかくれ波ひ髪　服部氏女 臣女

誰ならそ松よも草る春の風　涼之

虫干や鳳凰麒麟出ぬそり　甲州産芦薬斎 乙風

神の旅に出ひるるこそ　千翁

神祇　鯛のうらく紙の留る居の狭箱
釈教　一文々雑注抜洗を一拘
恋　業平も大豆を蒔くよりもや
無常　かぶりてを掛のもあるる死天の釜
述懐　女房ぶりも後口を見せて恋の歩の

夕乃旅　四季　梓沢巴雲

松　解て来ん初月淋しや松の雪
押まり　月なるとや鶴をとるなる蔓柳
接　くもる葉の秋を蔦るも楓ハ蔦そる
枫　くつ　水ちやや昔のふるを　枫浮

題　冬川　哥仙

いかるいは舟乃情ゆるし氏川　五百武
そびしき歌津の雪浮よ墨ク　沾涼
尺遠の陸も尾上をそ明て　倫仙
茶乃煙　ひるるもの　梅五
尚年も此辺書の葉鶏乃　五百武
詩を作へき　前乃葉肉　倫仙
表日ハいう紅て天ユのかゝ馬帽子　〃
浅瀬川て出てゆるる所い　五百武
紅牡ロ丶四国を紅て猪の跡　〃
岡屋い長者　五尺ま形板　〃

湯げること亡者とまつりて六部
むり 紀ぞの歩 遠ふかく 俳 倫仙
御油赤坂岡崎 地鯉舟 汐海宮 々
鬣譚をもる 紅毛の帳 立百武
雪となる花と雪踏の白なる 倫仙
ちりをさのこと おもふ 去り 桜立
月おぼろ芹生の里もちり 鬣 倫仙
袖にあやり 付さのぐ 留 々
田楽 十ばきく 梟 浅みどん 々
下手を 中一 一子 立百武
紅葉 松の 輪切り 盛 々
時代 ちぬ の 眼 行 倫仙
々

逝りしのはかく 赤 索麺 そろ そろ 立百武
こ 無 作 義 菴 ぐ 倫仙
無 廣 を 里 小 壁 の 油 貫 立百武
不 破 い 漏 と 傘 の 傘 々
雲 吹 い 梶 原 経 像 鬼 破 の 々
下 タ ヘ ひ と ん の 倫仙
馬 衣 矢 切 り 月 い ち ん と ふ 々
三 日 月 荷 い 嫁 の ち 的 立百武
紙 団 の 孕 句 お ち ち 山 風 い 々
仔 弱 い 時 生 て 盃 と 版 軽 桜立
田 跡 い ち ち む の と む ま ま あ り 立百武
苔 も ち 秋 く 秋 イ 堂 秋 タ 倫仙

酒志ゐも男っ花の姿　蒲仙
去乃白ひい今頃ゝの種　梅立

師不知
得入　小沢氏　季吟門
ト尺　長子　同苗　現
始孤吟ト云
ト尺　長子　同苗

青梅いぼ〻〻ものゝかゝ　得入
秋乃雲冨士をいろ〻よな　古ト尺
一雫一足志さゝう　菖蒲ゝ船　今ト尺

芭蕉翁東都よりおくれて履をとゝ〻い古ト尺のゝうし

梅留袖　沾涼門　冨山氏
仲芳小町　弐アも　梅のゝう会芳　沾師

沾涼方句享保十二丁未三月十七日
湯殿天満宮社地におゝく奥行　礼物座料不受

賀

いゝ〻〻や北斗の下れ　みゝう　魚路
義咲や伸〻て〻尋乃風れ色　立百武
此五ゝの方句奥行の記立

花よ花よ今年百樂百千秀　湖十
蔓長〻小乃義浪神乃池　佳風
花よ花〻苗れ千もゝ菊の松　潭北
秀久山や神代の梅ゝ通ゝ　露牛
あ免清き千岡よ鳴ゝや　弟子雀　吏登

連翹いされても坊主中百姓
十二産のかゝもの神無
蔓まつは藤江乃とを北據
笠塚や古のてうの義乃表
松ちゝは中にかゝあり花の門
卦を乗む簑新誠せはちた
ま掛あり花のもゝ人北風
世よ明まし助等多し花の附
桂かゝ丈ちゝ多北口いを井
国宝よ こゝ人あつ舞を雀
やうて名を不二よみゝあつ蕃

一漁
連歌師 丈蒙
桃翁
當国
沾山
白雲
百里
雨橋
節士
東巴
露月

花や今不二の襟もと蕃草
月ちゝれを山もも多花北 玉樓
雑いつ一雨 満花 時津風
大多の鳥も さゝの日 新作
葉の実のカを乞する入江
ちゝむすの内てゝ乗を蕃
光筋や夜も 舞 曲の花ちり
松ち根の極みちゝ北ちゝ
芳ゝゝ草にかちゝ名の実
舞廣也 ゝにゝ 鶴乃松
雲よ入ル多と 亜 畑や流汲山

丈岳
未石
八十唐
巾車
東閣
仙杏
呉竹
涼之
倫仙
江夕
雪朝

苗代に昔の新さを見みつゝ　貫汀

後ゝよれて小走りをひる帆掛舟　曉衛

永き春一尺二尺鶴乃足　出蛩

花乃口万句の序をよゝ笠　孤舟

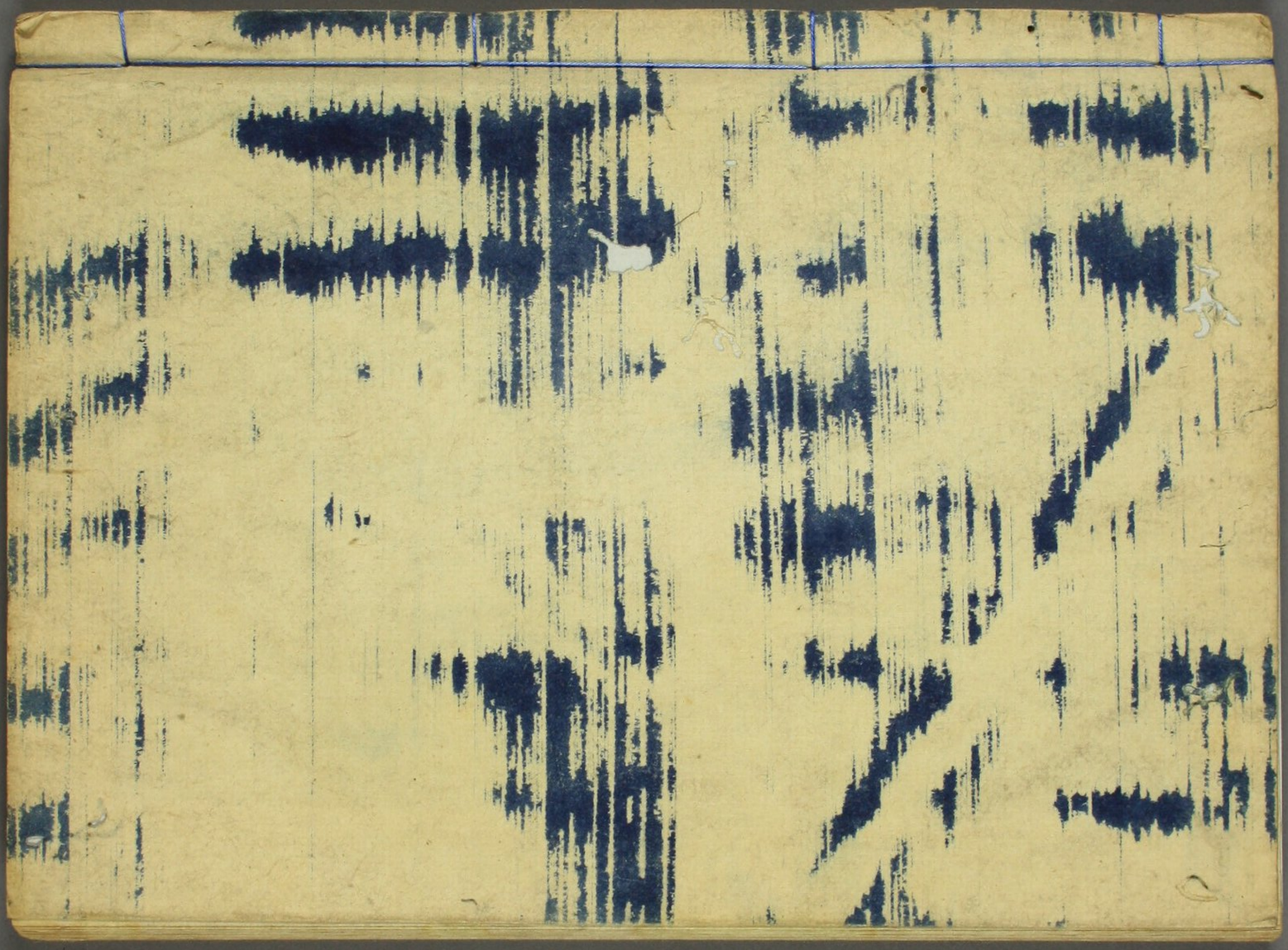
今日の長紋ゆゝ雑子の書　林潭

未久し孤ゝと云ふも蓮の幅　仙魚

明けゆくや亀の子の昼絲　沾友

桂久て菊や寺万二千句　桃舟

○當日七序　凡百余人おのゝ賀句あり

年尊ゝ星さんさくも足て寿ゝ限ゝ云ゝ出ゝ　ぬ千ゝ紀ス

あやにけりき中春油